

奥只見 未丈ヶ岳(1552m)

- ◎日 程 10月13日～14日
- ◎メンバー Aka(L)、Tsuka
- ◎報 告 Aka

奥只見・未丈ヶ岳の名を意識したのは深田久弥の「山頂の憩い」（朝日文庫・昭和57年）を読んだ時だ。瀟洒なる自然・冬「12支の山」の項で「今年（昭39）3月末、未丈岳のスキー登山に行った。宿からあまりに遠く途中で引き返したが、こんな山を知ってる人はあまりないだろう」という記述を読んでいつか行ってみようと思った。その気になって20数年前出かけてみたのだが、トンネルからの取付き点が分からず諦めた事があり、以来ずっと気になっていた山というわけである。

2014、2015年と2年続けて敗退した荒沢岳中腹から銀山平を隔てて望む未丈ヶ岳は秘峰の面影を色濃く残しひっそりと聳えていていつか登らねばと本気で思った。今年3月末、いつもの仲間3名と登った日向倉山からはすぐ間近に見えて「稜線伝いに迎えますよ、ついでだから行ってみますか？」と同行のTsukaさんに軽く誘われたが、「そりゃムリ、ムリ。秋にでも改めてお願いします」とその時は丁重にお断りし、今回の山行となった。

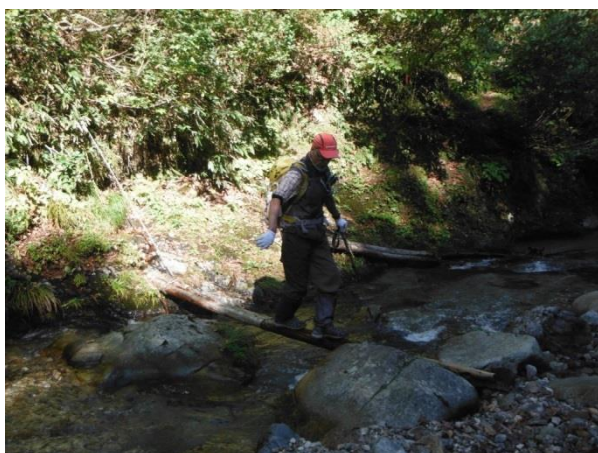
初日はロープウエーを利用し八海山の千本桧小屋まで登って足慣らしし、その夜の宿は奥只見シルバーラインの入口、折立温泉の「ゆのたに荘」。Tsukaさんは30年前に泊まった事があるそうで、その時はまだ建物も新しい高級ホテルだったらしいが、今は建物も古び、わけあり6000円という安価。

露天風呂は微温かったが食事はますますで掘出し物であった。真保裕一のベストセラー「ホワイトアウト」が織田裕二主演で2000年に映画化されたが、奥只見湖でロケがあり、その時はスタッフの常宿になっていたらしい。小説は面白かったが、映画はイマイチだった。

14日は5時起床。前夜作ってもらったお握りで朝食を済ませ6時前に出発。願ってもない良い天気で山間の冷気でキリッと身が引き締まり、闘争心に火がついた。登山口はシルバーライン内の泣沢避難所という所で、普段はシャッターが下りているので、その扉を開けて外に出なければならない。以前来た時はそれが分からず素通りしてしまったのだ。此処はトンネル掘削で出た土壌(ソリ)を棄てる為の出入口だったとの事で、20台位は駐車出来そうな広場となっていてその先に登山届け投函ポストが設置されていた。

6時15分出発。芒の中の平坦な道はすぐに泣沢へ下り、左岸へ渡ると急な崖に細い

ロープが 3 本垂れ下がる直登&トラバースとなってチョッと胆を冷やした。ここは沢の手前・左手に赤テープがあり、そこで左折していればどうという事もなかったのだが、直進したのが失敗だった。さらにその先に進むと直径 8~10cm 程の丸太を 2 本結んだ丸木橋が架かっていて、これがゆらゆら揺れて頼りなくて、かなりの緊張を強いられた。いつものように長靴履いた相棒はバランスが良くスイスイ渡って行くのだがこちらはへっぴり腰、先が思いやられたが、恐かったのはその 2 箇所だけ、最後に川幅 3 桁程の渡渉があったが、此処は相棒の長靴の出番、私は登山靴を脱いでサンダルに履き替えじゃぶじゃぶ渡った。冷たかったがホンのわずかな距離、気持ちいい位だった。



樹林帯の中の登山道は明瞭で、登山口から 40 分程で黒又川に架かる赤い鉄橋の三ツ又口に到着。

深田久弥は 1967（昭 42）年 11 月小出山岳会の若者 2 名と 2 度目の挑戦をしたが、橋が取り外されていた為断念、翌 1968（昭 43）年 10 月に小出山岳会の支援を得て 3 度目の正直で漸く未丈ヶ岳の頂上を踏む事が出来たという。この時同行したのは藤島敏男、望月達夫、川崎精雄、村尾金二という日本山岳会の錚々たるメンバー、川崎に拠ればその時はやはり橋はなく籠渡りだったそうだ。現在の登山道はその時の山行の為に小出山岳会がゼンマイ採りが通るだけだったかすかな踏み跡を刈り払い整備したもので、それ以降一般登山者がポチポチと未丈ヶ岳に登り始めたらしい。

立派な道標に従い急な登りで稜線に出ると、白い露岩の出た痩せ尾根となり、花崗岩の馬の背に何となく甲斐駒・黒戸尾根を思い出した。やがて登るに連れて展望が開け、横にたなびく白雲の上にすくと立つ荒沢岳が右手に見え出し、相棒と思わず「オーッ」と歓声あげてしばし写真タイムとなった。

二度挑戦してもう諦めた荒沢岳だが、相棒は「来年行きましょうよ！」としきりにけしかけてくる。見れば見るほどに憧憬の念禁じ得ない凜とした峰頭。「ウーン、どーしよう」、一度きっぱり諦めたのに又迷ってしまう優柔不断な我。 8 時 20 分、974m の小ピークにて一休み。三角点があり標点 No. 23 と打たれていた。どっしりと大きな越後駒や中ノ岳の展望が開け、迫力では荒沢クンは少し負けているが、どっこいそれ

がかえって貴婦人のような気品を浮き上がらせていて捨てたものじゃない。そこから 60m程下った平地が標高 910m の松の木ダオで、ブナや赤松の大木が並び、暑い夏は休憩場として良いらしいが、汗もあまり出ないこの時期なのでここは素通り。ダオとはどういう意味なのだろうか？

地図にはこの先〈やや急坂〉と書かれていて、高低差 600m の急登を覚悟したが、ドウダンやウルシの色づく登山道は思ったほどアゴを出す事もなく、10 時 40 分遂に頂上に立つ事が出来た。長年の宿願果たせ思わず顔がほころぶ。

誰もいない 2 人だけの頂上、遮るもののない展望を得て、越後三山はもとより、妙高連山、平ヶ岳、燧岳等お馴染みの山々に久闊のご挨拶、さらに北に向かって標高は低いものの積雪期にしか行けない毛猛山や桧岳、その奥に鎮座します懐かしの守門岳とその遙か向こうの粟ヶ岳を挟んで優美な裾を拡げる浅草岳、その右手には御神楽岳等々と奥深い越後の山並みの連なりを欲しいままに満喫する。

3 沓を越す猛烈な根曲り竹の藪を潜り相棒推薦の草原に降りると、そこは一面キツネ色に枯れた草モミジの原、太古のままの幽すい境、今まで見えなかった小さな大鳥池や田子倉ダムを挟んで会津朝日岳や丸山岳が目前に聳える一望千里の景観を堪能しノンビリと昼食を摂った。風もなく絶好の登山日和、ここで 40 分ばかりゆっくりし頂上に戻ると単独行者が寛いでいた。

今日出会ったのは彼一人だけ、奥深い越後の静かな山と秋の展望を大いに満喫し満ち足りた心で 11 時 20 分頂上を辞した。

(一面の草紅葉、太古のままの幽邃境) →

本日の歩行時間は登り 4 時間 25 分、下り 2 時間 50 分、合計 7 時間 15 分で老兵にしては頑張ったと思うが、今回は記録よりは記憶に残るいい山行だったと云っていいだろう。これも気を当てたことと相棒のリード宜しきを得ての事、感謝したい。



(花崗岩の馬の背)



(宿願の末丈ヶ岳頂上)

